



白石市白石一小6年の佐藤愛心さん(12)のイチオシは白石城。「春はお城を見るのに最高の季節です。満開の桜と一緒に見るととてもきれい」と語ります。

天守閣からは白石市内を一望でき、蔵王連峰や南北に疾走する東北新幹線も見ることができそうです。佐藤さんは「まちのシンボルとして自慢です」と胸を張ります。



同じく白石一小6年の新倉未来さん(12)は「のどろがおいしい白石うーめん」と語ります。

んを味わってほしい」と呼び掛けます。夏は冷たくして、冬は温かいつゆでと、一年を通して味わえる白石うーめん。給食にも出るそうです。家で自ら調理することもあると言います。「店で食べるのもおいしい。お土産にもお薦めです」



白石市白石二小6年の保科佑成君(11)は、校舎の2階にある珍しいプールについて教えてくれました。「テレビで紹介されたこともあるそう。底

に窓があり、下の廊下から泳ぐ姿が見える」二小は全校児童587人と、市内で一番大きい学校です。「明るくて、けんかしても話し合って解決できる仲のいい学校」と教えてくれました。同小6年の村上煌真君(12)は、伊達政宗の重臣・片倉小十郎景綱が居城とした白石城を推します。「春になると桜がたくさん咲いて、すごくきれい。お団子やお弁当を持って。お花見に来てほしい」

「白石は歴史があり、うーめんもおいしい。将来は明るくて、観光客が大勢来てくれる街になってほしい」と願います。



白石市福岡小6年の半沢朱子さん(11)は「福岡小は他の学校より緑が多いみたい。自然豊かな環境」と語ります。



「弥治郎こけしは頭のろくろ模様が特徴。一体、表情や線が違いのを見てほしい」と強調。「おじいちゃんが絵付けをするのを見て、素晴らしいと思った。技術を受け継ぎたい」と語ります。



お薦めスポット、自慢の品は

河北新報は6、12日、白石市と宮城県刈田郡(蔵王町、七ヶ宿町)を特集する「白石・刈田ウィーク」を展開しています。こども新聞でも小学生に地域のお薦めスポットや自慢の品を聞きまし。おいでよ わがまち」と題し紹介します。

蔵王町遠刈田小6年の草刈志基君(12)は「地元



月に数回は家族で共同浴場「神の湯」を利用するという草刈君。「湯上がりは幸せな気持ちになる」と話します。お風呂上がりには地元産のチーズドリンクを飲むのも楽しみだそうです。

遠刈田小6年の勅使瓦七海さん(12)は地域の伝統工芸品「遠刈田こけし」をアピールします。学校の近くに「みやぎ蔵王こけし館」があり、



多数のこけしを展示。絵付け体験などもできる。「アマビエこけしなどもあります。お土産に好みのデザインのコけしはいかがでしょう」と話してくれました。



蔵王町平沢小6年の村上晴稀君(12)は「蔵王の魅力といたら、自然が豊かなこと」とPR。ご当地キャラクター「ざおうさま」も描いてくれました。

平沢小5年の岡本優杏さん(11)は家族でよく行くという町内にある観光牧場蔵王ハートランド」を紹介してくれました。「お土産を買ったり、ヒツジやヤギなどの動物



七ヶ宿町七ヶ宿小6年の岡田琉那さん(12)は「七ヶ宿ダムが自慢の観」と語ります。と遊べたりして楽しい。近くにある『蔵王酪農センター』でアイスクリームやチーズ、パンなどの買い物もでき、また行きたくなる」そうです。七ヶ宿町七ヶ宿小6年の岡田琉那さん(12)は「七ヶ宿ダムが自慢の観」と語ります。図書コーナーやカフェのほか、キッズコーナーがあり楽しく過ごせる場所とのこと。「カフェのドリアやローストビーフ井がおいしい。多くの人に食べてほしいです」と話します。



七ヶ宿小6年の高橋拓夢君(12)は、町内の複合施設「こらっしえ」がお気に入り。月に数回、友達や家族と訪れているそうです。図書コーナーやカフェのほか、キッズコーナーがあり楽しく過ごせる場所とのこと。「カフェのドリアやローストビーフ井がおいしい。多くの人に食べてほしいです」と話します。

